



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間千共1100円

教会のこよみ	
1日	年間第十八主日
6日	主の受容
8日	年間第十九主日
10日	聖ラウレンチオ助祭殉教者
15日	聖母の被昇天
22日	年間第二十一主日
24日	聖バルトロマイ使徒
29日	年間第二十二主日

奄美大島地区信徒研修会

活動的な信徒の姿を求めて

奄美大島地区カトリック教会(大野和夫地区長)が七月四日(日)、名瀬聖心教会聖堂で開いた「信徒研修会」には二百人が出席、中野裕明神父(聖心教会主任)と安部由子さん(熊本手取教会)の講演で、信徒は召されている社会の中で、どうしたら生き生きと活動できるのかを学んだ。

毎年この時期、本土と同様に「班長研修会」を開催している奄美大島地区だが、今年は「班長に限っての研修会は、小教区でその報告会になってしまいがち。そこで一人でも多くの人に聞いてもらいたい」との配慮から、信徒研修会に名称を変更して実施された。

午後一時から始められた研修会で最初に講演したのは中野裕明神父。中野神父は「交わりの教会を目指して」というテーマのもとに、教会の構成メンバーとしての身分、またその身分におけるそれぞれの召命について解説した。また第二バチカン公会議以前の教会の問題点と会議開催に至るまでの準備と経過、その後の教会の動きについての問題点を提示した。中野神父によると、信者が生き生きと活動できない背景には聖職者と信徒に、それぞれがClericus(呼びかけの者)とLaicus(呼びかけの者)と表現されてきたこれまでの



中野神父による講話

の区別意識が残っているからだという。みことばと聖体を養われる初代教会の姿を目指した第二バチカン公会議の一番の特徴は信者という概念の変化。聖職者も修道者も信徒もキリスト信者としては平等、だからこそそれぞれの立場にある者が謙虚に交わり、社会の福音化のために話し合い協力しなければ改善は難しいと

中野神父の講演後、信徒活動の実例について講演したのが安部由子さん。安部さんは今年の四旬節にも聖心教会を訪れ講演、好評を博し、今回の信徒研修会での講師を依頼された。安部さんは自分が所属する教会を担当する修道会

平和旬間の過ごし方など検討

六月の定例司祭集会

定例司祭集会が六月二十九日(火)、聖ペトロと聖パウロの祭りに開催された。六月中旬に開催された定例司祭集会の決議事項についての説明と平和旬間の過ごし方などについての要望が司教からなされた。またカトリック中央協議会の出版事業の最近の話題として「カトリック教会

の教え」の発行部数が、現在五万三千部余りであることが報告された。このほか最近、著名な日本の学者が一神教を批判しているの、常任司教委員会では、一神教の本質の姿を示すメッセージを出す考えで一致していることなどが報告された。集会の後、四十人近い

8月15日(日) 午後4時
祇園之洲ザビエル上陸記念碑前広場
ザビエル上陸記念祭
聖フランシスコ・ザビエルとともに、聖母被昇天のミサをささげ、平和のために祈りましょう。

溝部脩司教が高松教区に着座

高松教区の司教着座式が七月十九日(月)、高松市の桜町教会で行われ、溝部脩司教(前仙台教区司教)が着座、正式に教区長として就任した。式には駐日教皇大使エングローズ・デ・パオリ大

教区典礼委員会

七月十三日(火)、教区本部で教区典礼委員会(委員長、小川師)が開かれた。議題は、十一月二十三日(火)開催予定の「教区典礼研修会」の内容について。どうしたら典礼が「楽しく喜んで、生かされている実

司祭たちが霊名の記念を迎えた司教を囲んで感謝のミサをささげた。説教の中でも司教は、一神教批判の動きに触れ、注意を促した。

鹿壮年連合

平和の集い開催

カトリック平和旬間の八月七日(土)午後七時から鹿児島カテドラル・ザビエル教会で「平和の集い」が開催される。鹿児島ユネ

第13回「夏期集中講座」

カトリック鹿児島教区主催

テーマ：聖書からの問いかけ
一人間・秘跡・福音宣教

講師：竹山 昭神父(教区本部)
日時：2004年8月16日(月)～20日(金)
午前の部/10～12時 午後の部/19～21時
場所：カテドラル1階ホール
対象：カトリック信者・求道者・興味ある方
受講料：500円(回数をおかず)
申込み：申込用紙に教会、修道院ごとに纏めて
8月13日(金)までに教区本部へ(当日も可)

司祭評議会

七月十三日(火)、教区本部で司祭評議会が開催された。

議題は三つで、まず、十一月の教区評議会の具体的な進め方が検討された。次に、司教区昇格記念について。鹿児島教区は来年二月二十五日に司教区に昇格して五〇周年を迎えるが、司教区やカテドラルについての理解を深める機会としてほしいという司教の考えが示された。次回の評議会でも五十周年のあり方をまとめる。最後に、平土野教会の建設許可について。同教会の建設許可申請を出した頭島光レデンプロトル会鹿児島準管区長から建設理由などの説明があった。司教は適切な計画であり、宣教的に重要な教会堂になると述べ、評議会の意見を聞いた後、司教は建設許可を出した。

教会の教えを学ぶことは平和の福音宣教の第一歩

「平和旬間」を迎えて

八月六日から十五日までは日本カトリック平和旬間です。鹿児島教区でも十五日にザビエル上陸記念祭を行い、聖人の偉業を称え、平和の福音宣教への決意を新たにします。また今年、新たにカテドラルで平和の集いを行います(一面参照)。

聖ザビエルがもたらしたものは、キリスト、そしてキリストの平和です。

教皇が一月に発表された今年の「世界平和の日」メッセージを振り返りましょう。このメッセージによりよく伝えるためには何が必要でしょうか。

「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」(マタイ十・十六)と主は言われました。

今年の教区目標は「教会の教えを学び直そう」ともに信仰を生き広めるためにです。糸永司教は平成十四年の年頭教書で、「神離れ現象である世俗化は、確実に進んで」いる。

「わたしたちはあらためて神に立ち返り、救いをもたらすキリストの福音を述べ伝えるべく、『新しい福音宣教』への決意を鮮明にしたい」と呼びかけました。

地上の平和の前提となる「神の定めた秩序」(福音ヨハネ二十二世「地上の

平和)は教会の教えの中に明示されています(平成十五年八月教区報「視点」)。世俗の中に派遣されているわたしたちは教会を通して神が明示してくださった教えを学んでこそ、地上の平和を実現するために働くことができるのではないのでしょうか。

「世界平和の日」教皇メッセージ

要約の一部(全要約は二月の教区報)

平和の教育

私が一九七九年に述べた「平和を達成するため平和の教育を」という訴えは、今日いっそうの緊急性を増している。教会はいつも、非常に単純な原理、「平和は可能だ」を教えてきたし、今日も教えている。平和を愛する人々には、新たな世代に平和の教育をすることによって、人類のよりよい未来を準備するという義務がある。

合法性の教育

平和の教育には各人々民族が国際秩序を重んじ、合法的に民を代表する当局の決意を尊重するよう導くことが肝要だ。文明の曙から、人類は徐々に武力行使に替わる合意による解決のために法を整備してきた。こうした動きの中心にある

ようか。教会に託されている信仰の遺産は、混沌とした時代にあつて確かな生き方、規準を与えてくれます。わたしたち一人ひとりが、教会の教えを学び直し、確信をもって平和のために働くことができるように祈りましょう。

聖母の被昇天

一九五〇年十一月一日、ピオ十二世教皇は、教義決定書「ムニフィチエンティッシモス・デウス(最も寛大な神)」において、聖母マリアが「地上生活の道程を終えて、肉体と靈魂ともども天の栄光に引き上げられ、そして主から、すべてのものとして定められた」ことを信仰すべき箇条として定めた。洗礼によってキリストに合体された人は、イエスの罪と死に対する勝利にあずかるが、一人ひとりの信者が「死」に決定的に打ち勝つのは、「世の終わりの」ときである。これに対して、聖母マリアは、この恵みを「先取り」(カトリック教会のカテキズム「九六六番」)した形で、今、キリストの復活にあずかっている。

世界平和と国際的治安を監視し、人類の基本的な善を維持し保障しようとする役割を、国際連合機関に委ねた。その中心的な役割は武力行使の禁止だ。例外は「正当防衛の自然な権利」「集団的安全保障」の二つだけだ。国連安保理が平和維持への権限と責任を負う。

テロの破壊的な傷

テロとの戦いでは単に抑圧や制裁に訴えるだけでは不十分だ。テロ攻撃の背後にある動機の勇氣ある正確な分析が要る。同時に政治と教育のレベルでも、一方では捨て難い暴力に駆り立てる不正義を根底から除く。

愛の文明

去すること、他方ではいかなる状況でも人命を尊重する精神を育てる必要がある。教会の貢献

教会は「平和を実現する人は幸いである。その人は神の子と呼ばれる」とのみ言葉にならうて救いのメッセージを告げながら、平和に貢献する。国際法はより強いものの論理がまかり通ることを避けなければならない。

真の平和のためには正義が愛のうちに成就しなければならぬ。正義だけでは不十分であり、愛という深い力に開かれていない正義は自らを裏切ることさえある。「愛の文明」が支配する人類社会だけが真の恒久的な平和を享受できるだろう。

<KABAYAN SEKSIYON>

"ANG SAKRAMENTO NG BINYAG"

Ang tema ngayon buwan ay ang tungkol sa sakramento ng binyag. Ano ang tinatawag na sakramento ng binyag?

Ang sakramento ng binyag ay ang pintuan sa buhay na walang hanggan at sa kaharian ng Diyos at ang pintuan na nagbibigay daan para sa iba pang sakramento. Sa pamamagitan ng binyag, tayo ay pinalalaya sa kasalanan at muling isinisilang bilang mga anak ng Diyos at tayo'y nagiging kasapi ni Kristo, inilakip sa Simbahan at nakikiisa sa kanyang misyon. Ang binyag ay ang sakramento ng panibagong-buhay sa pamamagitan ng tubig at salita ng Diyos.

Ang sakramentong ito ay tinatawag na paglilinis ng panibagong-buhay at kinasihan ng liwanag ng Espiritu Santo, nangangahulugan at talagang nagdadala tungkol sa pagsilang sa tubig at espiritu na kung hindi ay "hindi makakapasok sa kaharian ng Diyos."

Ang binyag ay ang pinakamaganda at kahanga-hangang handog ng Diyos. Tinatawag nating handog, paglalahid, nagbibigay-liwanag, damit ng walang-hanggan, paliligo ng bagong buhay, selyo at pinakamahahalagang handog.

Kaya sariwain natin ang binyag ng tinanggap natin noong tayo'y mga bininyagan. Huwag nating sayangin ang handog na bigay sa atin ng Diyos.

Ang mga anak ba ninyo ay binyag na bilang katoliko? Kung hindi pa nabibinyagan ang inyong mga anak, ay pumunta kayo sa simbahan at kausapin ang pari kung ano ang dapat gagawin para mabinyagan ang mga bata.

Ito ang kahalagahan ng sakramento ng binyag.



Fr. Dino A. Orolfo

tel/fax 09972-2-0423 keitai: 090-2085-1094

今月の暦

(8月)

3日(火) ルーシン・ヤング神父命日(一九九四年)

4日(水) 聖ウィアンネ(小平卓保神父)

6日(金) 日本カトリック平和旬間始まる。15日まで

▼知名瀬教会奉獻堂記念日(一九七〇年)

▼日本カトリック平和旬間

一九八一年、教皇ヨハネ・パウロ二世は広島で「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われ、平和を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もつともみじかか忘れることのできない広島や長崎の事実を思い起こすのに適した八月六日から十五日までの十日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。

「平和旬間」に、広島教区と長崎教区では全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

7日(土) 平和の集い(パネルディスカッション)・カテドラル・19時

8日(日) 聖ドミニコ(田原章神父)

14日(土) 聖マキシミリアノ(西本仁史神父)

15日(日) ザビエル上陸記念祭・上陸記念碑前・16時

▼枕崎教会奉獻堂記念日(一九五六年)

▼根瀬部教会奉獻堂記念日(一九六二年)

16日(月) 第十三回「夏期集中講座」・カテドラル・10時・19時・20日まで

19日(木) レンブートル宣教修道女会谷山修道院祝別式・10時

28日(土) 聖アウグスティヌス(橋口啓悟神父)

▼オーバン神父命日(一九八八年)

9月

1日(水) 教区本部会議・教区本部・10時

8日(水) 七田和二郎神父命日(一九八九年)

15日(水) 教区の日(カテドラル奉獻堂記念日)・カテドラル・14時

五回目のカテドラル奉獻堂記念日になります。一人でも多くの信者がカテドラルで司と共に感謝の祭儀をささげ、教区民の奉獻を新たにしよう求められています。

聖母像を祝別 (岡前教会)

百三十人が集まり徳之島地区信徒大会

七月四日(日)岡前教会で信徒大会を開催した徳之島地区カトリック教会は、信徒の献金で同教会庭に建てられたマリア像の祝別を行った。また大会では教会維持費の大切さが訴えられたほか、老後に向かう姿勢や考え方を示す体験発表があった。



いつもいきいき徳之島の信者たち

第二十七回目となった今年の徳之島信徒大会には、晴天に恵まれ全島から百三十人の信者が集まった。この日祝別された岡前教会のマリア像は、信徒の発案と献金によって建立された慈しみの聖母像。聖母像の後には美しい黒檀が植

えられ、その周りは新設された石庭が整えられている。祝別式後はミサがささげられ、その後は名越静雄さんが平土野教会建設の進捗状況を報告、また池上俊夫さんが教会維持費の内訳とその目的などを説明し、維持費の大切さを皆に伝えた。

それらの報告後は天城町でグループホーム「こぼれ陽」を運営する向井マツ子さんが、老後に向けて大

ザビエルさまの散歩道

聖フランシスコ・ザビエルが来航して四五五年目を迎える。カトリック教会を痛烈に批判し離れていったドイツ人、ルターらの活躍する時代に、主イエスと教皇様の方針に絶対的に従うことを誓い、インド、東南アジア、日本などで、福音を宣教された。それだけでも偉大な功績である。

しかし教皇様に謁見してから十五年近くの福音宣教の旅は常に命がけの日々であったようだ。

ローマを出発する際「貧・貞・従」の誓いをされたという。私なりの解釈をしたら「貧」は清貧のこと、師の宣教の旅は教皇代理という身分には程遠いものであった。

貧・貞・従の誓い

生き方に安住せず、ご自分の生活で範を示された。

永い航海は厳しいもので、船室は病人が続出した。しかし常に看護と汚物の洗濯、沐浴、慰め、司祭の務め等を積極的に果たされた。なんとすごい宣教師なのか。

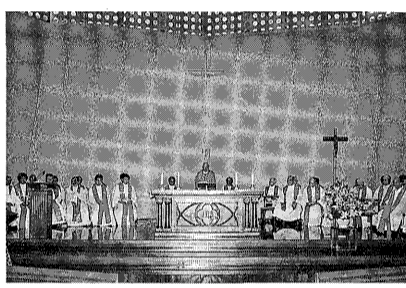
「貞」は貞節や貞潔のことで、主

切な姿勢や心構えについて体験発表をした。その後は床の修理を終えた教会ホールで岡前教会婦人会手作り

教えの学び直しを切に願う

霊名の祝い日に糸永司教

聖ペトロとパウロの祝日に当たる六月二十九日(火)、定例司祭集会(コンベトウス)のためにカテドラルに集まった教区の司祭



のみそ汁で昼食、最後には各自の願いを記入した短冊を風船に結び、空に放ってその成就を願い散会した。

私たちは、この日霊名の祝いを迎えたパウロ糸永司教を囲んでミサをささげた。

ミサ中、糸永司教はこの日の福音から「私たち司祭団は信じて、生涯をかけてこの道を歩んでいる。それには血を流すほどの決意があった。人の子は神の子であると言ったペトロのように私たちも人々に、堂々と信仰を宣言しなくてはならない」と述べ、そのためにも確固たる信仰の礎を固めるために教会の教えの学び直しをするよう付け加えた。

この日集まった信者たちの数は少なかつたが、司教と司祭団の熱意を受け取り、宣教への決意を新たにしていた。

奄美女性連盟総会

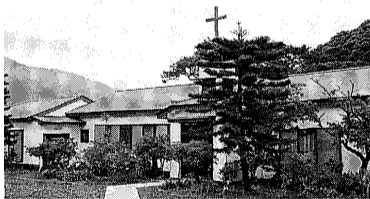
奄美カトリック女性連盟の第二十六回総会が六月十三日(日)、古田町教会で開かれ百七十人の会員が出席、席上、新会長に重信弘子(聖心教会)さんが決まった。

総会に先立ち顧問司祭大野和夫神父が「宣教は足もとから、家庭から。笑顔で明るい家庭の中心に神が座っているような生活をすように」と講話したよう



に、今年の総会テーマは「家庭から始まる平和」。その後、十二年間に及ぶ夫の闘病生活を支えた瀬留小教

色鮮やかに山間教会



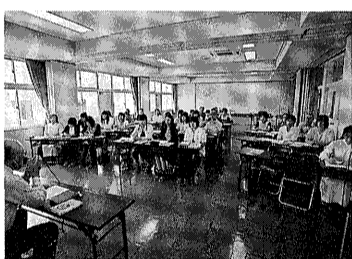
トタン屋根にペンキ塗を施し色鮮やかに山間教

会が甦った。これは雨漏りのひどかった同教会が、四年前からその葺き替えに乗り出していたもので、このほどペンキを塗り終えたもの。

現在、古仁屋教会(西本仁史神父)の巡回となっている山間地区は一九六二年に民家を借りて布教が始められ、翌年一九六三年十月に現教会が献堂されている。

教会のセンスを養う

聖マリア学園職員が研修会



教区が経営する幼稚園(学校法人聖マリア学園)

では六月二十六日(土)、聖母幼稚園(田原章園長・鹿児島市荒田)で教職員研修会を開催した。この企画は三月に開かれた同学園評議会と理事会での決定に基づいて開かれたもので、吉野、聖母、加世田聖母(枕崎分園含む)、白百合の四つの幼稚園から教職員三十人が集まった。

午前十時から始められ

た研修会ではまず同学園専務理事の田原章聖母幼稚園園長が講話、聖書の中から「子供が神からの賜物である」ことを示し、教職員はその宝を育てる大事な義務があることを訴えた。その後は、今回の研修会の担当である聖母幼稚園から泉副園長や主任が現状を報告。午後からはグループ討議で各園が分かち合いを行った。

学園ではこの研修会をこれからも継続して実施する方針。

「短信」

- ▼キリシタン墓地清掃
ザビエル教会壮年会では六月二十日(日)ミサ後に、鹿児島市立玉竜高校裏山にあるキリシタン墓地の清掃を行った。
- ▼大口教会堅信式
六月二十七日(日)堅信式で八人が受堅した。
- ▼鴨池教会堅信式
七月十一日(日)、鴨池教会の堅信式では十四人がその恵みに浴した。
- ▼吉野教会学校教会巡り
七月十七日(土)一学期の終業式を迎えた吉野教会学校では、保護者の希望もあつて教会巡りを実施した。子どもたちが巡った教会はカテドラルと鴨池教会、それにレデンプトール宣教修道女会。各教会ではカテキスタや主任司祭らが行方を歓迎した。子どもたちと父母たちの五十人を超える巡礼団は、各教会を巡り最後は吉野教会に帰って、婦人会手作りのカレーライスに舌鼓を打った。

紹介

ヤジロウの数奇な半生(徳永健生著 リブリオ出版)

紫原教会司祭 小平卓保

「ヤジロウはなぜマラソウカ行きの思い立ったのでしようか。それは、殺人者としての罪意識だったのであります。日本のキリスト教宣教の始まりに罪意識があったことは注目に値します。それは極めて聖書的といえます。聖書の冒頭には、人間の最初の罪の記述があり、この罪のためにキリストというメシアが来臨するようになったとされ、この罪を教会は「幸いなる過ち」と呼んでいます。ヤジロウの犯罪がなかったら、ザビエルという大聖者は、こんなに早く日本に来なかったでしょう」(ザビエル上陸四五〇周年記念・国際シンポジウム)

と、これ以上人さまのまえに出られんがよ」(三一五頁)。これが鹿児島島に上陸する前のヤジロウの最後のせりふである。

作者は河野純徳師や松田毅一氏の研究を参照したといわれるが、登場人物はおおたか架空であり、表現には文学性の高い句が多く、しばしば辞典を参照した。たとえば「夕暮れの赤中白の波濤は散華のうつくしいざわめきであり、夜明けの青中白の軌跡は、わたしのいまわしい記憶を忘れさせてくれる運命の軌跡と言えぬものでした」(五七頁)。

私の好きな哀調をおびたポルトガル民謡フアドが見られ(五八頁)、またヤジロウがザビエルと会った際の描写も印象的である(二七一頁)。

谷山教会主任司祭J・ムイベルガ神父(レデンブートル会)の永年の研究がまとめられこのほど出版された。十六世紀の日本に福音が、キリスト教の信仰がどのように伝えられたかを巡察師ヴァリニャーノ神父のカテキズモの分析を通して語っている。

と、これ以上人さまのまえに出られんがよ」(三一五頁)。これが鹿児島島に上陸する前のヤジロウの最後のせりふである。

作者は河野純徳師や松田毅一氏の研究を参照したといわれるが、登場人物はおおたか架空であり、表現には文学性の高い句が多く、しばしば辞典を参照した。たとえば「夕暮れの赤中白の波濤は散華のうつくしいざわめきであり、夜明けの青中白の軌跡は、わたしのいまわしい記憶を忘れさせてくれる運命の軌跡と言えぬものでした」(五七頁)。

と、これ以上人さまのまえに出られんがよ」(三一五頁)。これが鹿児島島に上陸する前のヤジロウの最後のせりふである。

作者は河野純徳師や松田毅一氏の研究を参照したといわれるが、登場人物はおおたか架空であり、表現には文学性の高い句が多く、しばしば辞典を参照した。たとえば「夕暮れの赤中白の波濤は散華のうつくしいざわめきであり、夜明けの青中白の軌跡は、わたしのいまわしい記憶を忘れさせてくれる運命の軌跡と言えぬものでした」(五七頁)。

私の好きな哀調をおびたポルトガル民謡フアドが見られ(五八頁)、またヤジロウがザビエルと会った際の描写も印象的である(二七一頁)。

作者は河野純徳師や松田毅一氏の研究を参照したといわれるが、登場人物はおおたか架空であり、表現には文学性の高い句が多く、しばしば辞典を参照した。たとえば「夕暮れの赤中白の波濤は散華のうつくしいざわめきであり、夜明けの青中白の軌跡は、わたしのいまわしい記憶を忘れさせてくれる運命の軌跡と言えぬものでした」(五七頁)。

私の好きな哀調をおびたポルトガル民謡フアドが見られ(五八頁)、またヤジロウがザビエルと会った際の描写も印象的である(二七一頁)。

作者は河野純徳師や松田毅一氏の研究を参照したといわれるが、登場人物はおおたか架空であり、表現には文学性の高い句が多く、しばしば辞典を参照した。たとえば「夕暮れの赤中白の波濤は散華のうつくしいざわめきであり、夜明けの青中白の軌跡は、わたしのいまわしい記憶を忘れさせてくれる運命の軌跡と言えぬものでした」(五七頁)。

私の好きな哀調をおびたポルトガル民謡フアドが見られ(五八頁)、またヤジロウがザビエルと会った際の描写も印象的である(二七一頁)。

文芸

短歌(思川短歌会作品)

大口 森 博伸

まず神の国とその義を求めよと主を知りそめし言葉なりき
ラテン語のミサなつかしく思う日
よ今も手にありミサ典礼書
(評) 結句に人柄が出てよい。

出水 遠竹睦郎

マリア像飾りし部屋に吾れ在りて
朝の祈りを今日も捧げぬ
雲仙の彼方に真紅に焼けし空原爆
の記憶いまだに消へず
(評) 祈りの尊さと深い悲しみを詠んだ歌。

古仁屋 豊島忠司

万緑が光を返す加計呂麻を復活祭

俳句

鹿兒島 前田儀子

へバスひた走る
朝の九時唄の間違ひ電話ありいきなり苦情を大声で聞く
(評) 推敲を重ねられた歌。
鹿兒島 前田儀子
ひたすらに絵を描くのに生きて来し君なれば神は天に召される
かたくなに妥協せざりし作品を見る時いたく迫るものあり
(評) 前向きな佳作。

阿久根 中津濱フサエ

週末に神父さまよりうけにける勉強会に心合います
ロザリオの祈り求める道すがらふりかへり見つつ神にわび入る
(評) 信じていることが信仰であることを教えている歌。

阿久根 眞清水 藍

ともすれば小さき不信のきざす時

俳句

鹿兒島 田平新太郎

掌にロザリオの珠は重たし
強き自我折れたる日なりひたすらに神したわしき祈りを覚ゆ
(評) 自問自答の石段を確かめる佳作。

鹿兒島 田平新太郎

ハンカチを一枚用いる妻清し真白き好み義好を偲ばゆ
ゆらゆらと鬼灯市の灯す光画面を焦がす程に美し
名瀬 松畑義弘
台風そのあをき眼や島閉ざし
台風の逆吹く露地や傘すばめ
(評) 「島閉ざし」の結句がよい。

鹿兒島 徳永ノブ子

ロザリオを唱う集いや梅雨しとど

俳句

鹿兒島 春山マリ子

小さきは小さき薔薇咲く神の愛
(評) 聖句の完成度も高い。
鹿兒島 春山マリ子
ちぎり絵の青い朝顔友描く
命日や猛暑に逝きし母徳ぶ
(評) 清新な「青い朝顔」の表現がよい。

出水 遠竹睦郎

慈愛満つマリアの像や夏の部屋
蜘蛛合戦加治木の長き歴史かな
(評) 朝の祈りが聞こえてくる句。
鹿兒島 本城 愛
梅雨ゆきて小鉢に開く白い薔薇
祭壇にさす一輪の里の百合
(評) 家庭祭壇の白い一輪が浮かぶ句。

鹿兒島 龍門司真人

美しくなる桜島暮れる山
七夕や父母笑み給う天の川

大熊小教区侍者会の規則

- ① ぼくは、ごミサや教会学校に休まず来るようがんばります。
- ② ぼくは、侍者におくれないようにします。
- ③ ぼくは、侍者服を大切に、ごミサの道具をきちんとあつかいます。
- ④ ぼくは、勉強、遊び、手伝いをがんばります。
- ⑤ ぼくは、友だちと仲良くし、助け合います。

三位一体のしゆく日に、ぼくたちはじ者の入会しきがありました。ぼくはこの日、ぐるぐるの楽しみをまわっていました。じ者は男の子だけにできる神父様のお手伝いです。そして神様のことを、よく知ることができるようになりたいです。ときどき教会学校を休んだり、教会にいかなくなった時も、これからはなるべく休まないようにしたいと思います。そしてじ者のやくそくでもある「お手伝いをする。ちゃんとばんきょうやしゆくだいをする。友だちとなかよくあそぶ」をまもりたいと思います。

小学校三年 平田 巨

キリストと再び出会う

レナト神父と青年たちの勉強会

ある青年達の小さなグループの活動を知って、そのグループを指導しているレナト神父様に活動内容を尋ねるとき「ぱりと」勉強会です」と返って来た。その活動は、ある幼児

洗礼を受けた青年が分ち合いのなかで、自分がもつた信仰についてもっと勉強したいという思いを話した事がきっかけで始まった。ごく少数のグループだったが、一か月に一回の集まりで、イエスという人物や最後の晩餐・復活や奇跡と癒し等について、様々なエピソードを交えて聖書や聖書思想事典などを使いながら熱心に勉強している。

以下、勉強会参加者の声。
レナト神父様と何人かの青年とで聖書の勉強会を始めてから、もうすぐ一年が経とうとしている。何気ない一言から始まったこの会は、今では当初より人数も増え、より深い分ち合

いができ、約二時間の勉強会の時間は毎回あつという間に過ぎていく。レナト神父様が用意してくださる資料をもとに、イエス様の生きた当時の人々の文化・考え方・習慣を知り、その後聖書にかえり理解を深める。この作業をしていると、「ナザレのイエス」が抽象的なものではなく、われわれの歴史に入り、存在していたということがはつきりとわかる。そしてイエス様は、当時の人々だけでなく、今を生きる私たちにもことばを投げかけ、日々を生きていく喜びを与えてくださっていると感じることができると感じる。勉強会では、自分が気付かなかったことに気付かせてくれるし、また誰かと同じ事を思ったときは心が温かくなれる。疑問に感じたことは立ち止まってみんなで一緒に考えてくれる。そしてまた、ひとりでは得られない充実感が心が満たされるのである。このような場、このような仲間を私に与えてくださった神様に感謝したい。来月はどんな分ち合いができるのだろうか。とても楽しみである。

(吉野教会 木下かよ)

集いのお知らせ

◇ カトリック教師の会「研修会・黙想会」8月7日(土)15時~8日(日)正午 マリア山荘「他人と自分との関係を見つめよう一愛するとは」指導:西本仁史神父「講演」「分かち合い」「CHR(クリエイティブヒューマンレーションズ)の実践」参加費:3000円 問合せ 岩崎正幸(ラ・サール高校)TEL099-268-3121 eメール iwazaki@ml.lasalle.ed.jp

◇ 集中内観(信仰の心を育てる祈り・修業)8月16日(月)10時半~21日(土)正午 マリア山荘(Tel0995-58-2994)指導:岡俊郎神父(Tel0997-53-7456)費用:1泊6,500円(3食付・但し初日は7,500円) / 日帰り研修2,000円 ※04年内観予定 9月19日~25日・11月21日~27日・12月18日~23日